

賢太郎 劇場にご招待 ⑥



ラーメンズ 17回公演『TOWER』

6月18日(木) 新大久保・グローブ座

6月23日(火) 新大久保・グローブ座



4月1日の東京本多劇場を皮切りに全国を周り6月に東京グローブ座に戻り全部で72公演。最初と最後が東京なので両方に行き違いを見たかったが、4月の本多劇場は全滅。どんどん形を変えていった完成形の舞台を見ることになった。

それが1年2か月ぶりの小林賢太郎、そして待ちに待った初のラーメンズ本公演。

韓国の街、新大久保も初めて。一緒に行った年上のコアなラーファンとも初対面。高揚感とともに妙な緊張感の中、19時開演。

ちいさな舞台に明りがつくー。

箱に乗り停止した姿で現れた二人。話さない、動かない。しーんと静まりかえる会場。すごい集中。やがて機械のように動き始め、いくつかの黒い箱を使って天の声の指示のものを作っていく。

15分くらい経ち「パス」と賢太郎、それが初台詞。組み立てた箱の中から賢太郎が手をだし、その手をひっこめても残った掌。会場がどよめいた。

ふたつ目のコント。パーティー会場の裏の二人。ウェイターの賢太郎は忙しく動き回り、仁さんは暇そうにあやとりをしている。賢太郎が姿を消す先にあるのがパーティー会場。面白いことが起こった瞬間を隠し、



その前後の二人の会話で起こったことがわかる仕組み。主役はあやとりの紐。あやとりを知らない賢太郎に点 AB とか交わる点とか数学用語で説明をするのは笑いどころ。

3つ目のコントは二人が座って話をしているところから始まる。『TEXT』の〈透明人間〉の知的な笑いを期待したが、妄想の世界に話が移り身体を使った笑いとなったのは残念。

4つ目のコントはハイウエストすぎるパンツを履く二人。影の音が流れる。ちょっと〈Q&A〉的。ゲシュタルト崩壊（同じ字を書き続けているとわからなくなってくる）がテーマらしい。賢太郎は非常に気に入ってるようだが、私にはびんと来なかった。

そして次のコント、タワーマニアの二人がとても楽しい。〈器用不器用〉〈蒲田の行進曲〉など二人の仲の良さが魅力のコント同様、これもツルちゃん（仁さん）を慕う賢太郎がとてもいい。




全国のタワーの名前と高さをいうところがあるが「広島はない」。残念、yuko さん。名前がタワーでもマンションや、尖ってないものはタワーマニアはタワーと認めないそうです。注文するのに緊張感を伴うスタバのコントは私も共感。飲み物のサイズは S、T、G、V で、そのうえ S は Small じゃなく Short。T G V に至っては最早合わせて電車ですか、と。（ちなみに T は Tall、G は Grande、V は Venti ですと！）

そして五重塔のコント。仁さんは五重塔の着ぐるみを着て登場。そのシルエットを大きく映し、隣に中にいる賢太郎を置いて会話する。これは最初からずいぶん形を変えたコントのようだが「ズビズバツ」と連呼するところは変えないで来ている。緻密な本の中にぼんと無駄にも見える野暮ったさを賢太郎はよく入れる。それが今回はここ。

そして再び箱を使って天の声の指示のものを作るコントに。箱4つと仁さんで作った【幻】は賢太郎っぽい。どーだ、という声が聞こえてきそうな顔をしていた。

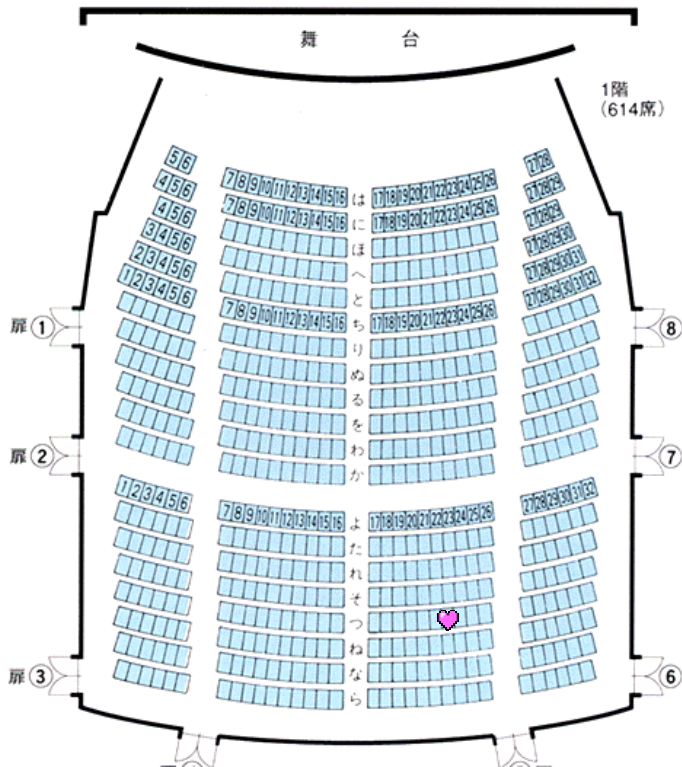
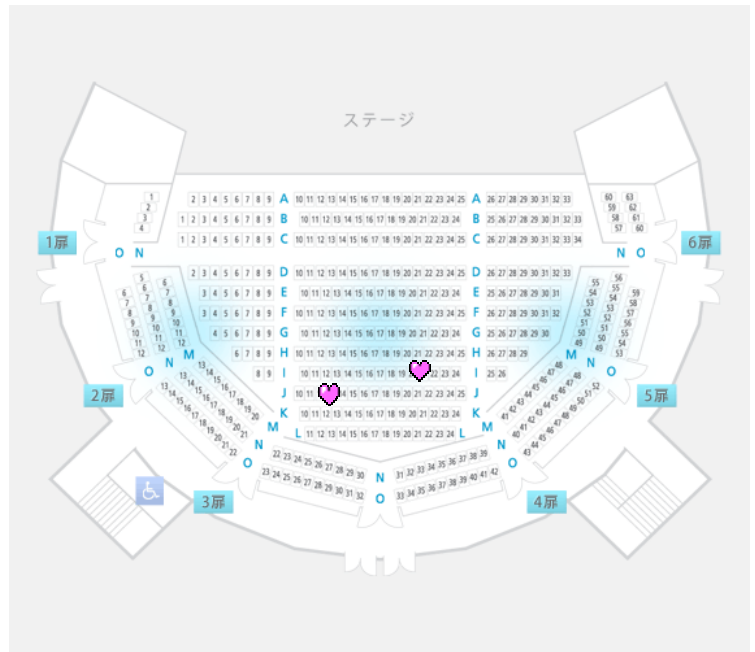
箱をピアノに見立て弾き始める賢太郎。美しい手の美しい動きに見とれる。その手がピアノを離れ空中で弾いても音楽は止まらず、音符が空中を流れていく。追いかける仁さん。両手を合わせ音符を閉じ込めると音楽が止まる。そうっと手を広げると「ぼろん」と音符がこぼれた。抒情的な場面。最後は出入り口の向こう側に箱を階段状に並べ、次々と『TOWER』の登場人物が昇って行く。この会場は小さいので席はどこでもいいと思っていたけど、これは出入り口の幅 1 m 程しか見えないので正面からじゃないとわかりにくそう。私は二回とも中央の席だったので流れがよく見えた。裏では着替えがどんなに忙しいことかと想像がつくほど自然に流れていた。7つのコントが終了し、再び舞台に現れた二人。「家に帰ったらうがい、手洗いを忘れずに」と賢太郎のエンドトークで二時間の公演が終わった。笑いを説明するのは野暮ってものだけど、ラーメンズなら大丈夫。一度目より二度目の方が面白かったくらいなもの。三度目にDVDで見るときはまた違った笑いをくれることでしょう。

☆ラーメンズ


グローブ座 

1階～3階 703人収容

シェイクスピアを上演することを目的として建てられロンドンのグローブ座を模した外観。張り出し舞台と、観客席がステージを囲んでいる三層の円形空間。その後、経営が成り立たなくなり、ジャニーズ事務所が買い取った。




☆大喜利猿

 九段会館

1階～2階 1112人収容

「つ列」だったので、あいうえお順かと思ってたらいろは順でした。「ろ」から始まっているのでどちらでもそうは変わらないけど。

こんなところでも写真を撮る九段なふたり 



賢太郎 劇場にご招待⑦

大喜利猿「北海道」出版記念ライブ 東京公演

7月12日（日）九段下・九段会館

15000人収容の武道館と牛ヶ淵を挟んだところにある九段会館。1時間前に着いたら人の流れもまばら。受付に行ったら、当日券をまだ売っていた。猿、人気薄っ。てか、当日券に人数取りすぎ感。



ラーメンズ公演のときは、花輪は全部楽屋にあるので見ることができないが、猿のときはふつーに飾ってある。

ヒデザル・升野英知（バカリズム）とする大喜利。お題に絵や文字で答えていく二人。私は去年に続き二度目の参加。ラーメンズが終わってすぐだからこそ全く緊張感のない舞台での緩さを賢太郎は楽しんでいった。でも瞬発力の勝負だから答えはヒデザルの方が面白いものが多い。

一番笑ったのは回答ではなく大喜利猿の本のポップを考えよう>のお題のときのヒデザルの回答「ブックオフで2万で売れます」に賢太郎がすかさずつつこんだ「プライドッ！」の一言。

途中、客席に照明をつけて全員に配布された【大喜利猿】の本で賢太郎と遊び、緩い2時間の終了。

ひとつ困ったことは、眼鏡の度があっていないので書いてある字が読めない(>_<)狭い会場で18列目だったので自分の眼力を甘く見てた。猿は若い人のものです…。って、いちけるくらいなら眼鏡を買えってね。



隣の席のひとりで来ていた女の人が始終節操無く笑い、こういう人が芸人を殺すなあと思いながら九段会館を後にした。これからはばらくはまたDVDとお付き合い。早く帰ってきてね、ラーメンズ！